

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
 関東甲信工事事務所入札監視委員会（第18回定例会）審議概要

開催日及び場所		令和6年7月26日（金） 東京工事事務所5階会議室	
委員		村瀬均（弁護士）、西村万里子（大学教授） 谷和夫（大学院教授）	
審議対象期間		令和5年10月1日～令和6年3月31日	
工事	抽出案件	件数 0件	(備考)
		※発注なし	
役務	抽出案件	件数 1件	
	公募型競争入札方式	地質調査（山梨7）	
物品等	抽出案件	件数 0件	
		※発注なし	
高落札率契約	抽出案件	件数 0件	
		※該当なし	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等		意見・質問	回答
		別紙のとおり	
委員会による意見の具申 又は勧告の内容		な し	

別紙（役務）

	意見・質問	回答
1	<p>公募型競争入札方式 「地質調査（山梨7）」</p> <p>①サンプリング試験はデニソンサンプリングを指定しているが、現場の性状に応じて契約変更することがあるのか。</p> <p>②地質調査分野においては、現場の状況等が不明確なことが多いため、弾力的に予定価格を設定するといった余地はあるのか。</p> <p>③落札率が65%となっているが、落札者が入札額を下げた理由をどのように判断、分析しているのか。</p> <p>④過年度の地質調査の落札率はどのような状況なのか。</p>	<p>①地質条件に応じて、サンプリング方法は設計変更を行うことを考えている。</p> <p>②本件の地質調査における土質ボーリング及び試験内容は標準的な方法であるため、市場単価が設定されている。また、工事等と同じく国土交通省の基準に沿った積算となっている。弾力的な運用はしていない。</p> <p>③落札候補者には低入札調査を実施する過程で、当該価格で入札した理由を確認している。本役務における落札者の入札価格は、現地作業に要する費用等が予定価格の80%程度、諸経費が30数%という低い率となっている。当該事業者は過去に本事業の山梨の地質調査を2件落札しているということで、現地に精通しており効率的に作業を実施できること、また、全社的な事務手続き等の効率化により管理費等の圧縮が可能であることから、この価格で本業務を履行できるという説明を受けている。総合的に見て落札者として問題ないと判断している。</p> <p>④落札率はおおむね50～80%程度である。</p>

別紙（その他）

	意見・質問	回答
1	<p>役務の全体審議 なし</p>	
2	<p>高落札率契約の全体審議 該当なし</p>	
3	<p>一定規模以上の取引関係を有する法人との契約の全体審議 該当なし</p>	

4	その他 なし	
---	-----------	--